

経済学と経営学の違いについて

よく学部学科選びで迷いがちなのが、経済学と経営学の違いです。よく言われるのが、国全体のお金について考えるのが経済学で、企業のお金について考えるのが経営学だよ、という説明ですが、何となく本質には触れていないように思います。今回、説明のためのちょっといいアイデアを思いついたので紹介してみます。

ある村に共有の牧草地がありました。ここで100匹の羊が放牧されると、翌年もまた草が生えて、毎年100匹の羊を養うことができるような牧草地です。

村には10匹の羊を飼っている羊飼いが9人いて、合計90匹の羊がここで飼われていました。羊飼いたちはより多くの羊を飼うことで利益を得ようと考えています。ある羊飼いが羊を11匹飼うことにしたところ、他の羊飼いやも11匹飼うことにしました。これで99匹の羊がこの牧草地にいることになります。

それでもまだ余裕があるので、ある羊飼いは12匹目の羊を飼うことにしました。ならばと他の羊飼いやも12匹目の羊を飼うことにしました……牧草地には100匹以上の羊が放たれることになり、その結果、牧草地は食い荒らされ、翌年には全く草が生えず、村では羊を1匹も飼うことができなくなってしまったのでした。

これは「共有地の悲劇」としてよく知られている例え話です。

この話において、羊飼いの誰か一人が悪人だったわけではありません。みんなが「あと1匹くらいなら大丈夫だろう」「自分だけ我慢するのは損だ」と合理的に考えた結果、全員が損をしてしまうということになったのです。

では、どうすればよかったのでしょうか。誰か（もしくはみんな）が「1人11匹までしか飼ってはいけない」とルールを決めたり、ある人が8匹しか飼わないことにすることで、他の人が飼える羊の数を融通したりすれば、牧草地が食い荒らされることなく維持できたはずですよ。

この話の中で、羊飼いたちが「どうすれば自分はいくら多くの利益を得られるか」を考えるのが経営学の視点、牧草地を含めた社会全体のバランスを考えるのが経済学の視点だと考えるとわかりやすいと思います。

経営学の視点では、羊飼いたちはどうすればうまく羊を育て、利益を得られるかを考えます。一方、経済学の視点では、牧草地を含めた社会全体をどのように持続可能なものにしていくかを考えます。経済学は「有限なリソースをどのように配分し、持続的に利用するか」を考える学問です。近年よく話題として取り上げられるSDGsという言葉がありますね。SDGsは道徳や倫理（良いことをしよう、困っている人を助けよう）の話だと捉えられがちです。ですが、実は経済学の観点で扱うべき内容が多く含まれています。もちろん、SDGsには環境問題など、理系的な視点もあります。また、牧草地に何匹まで羊を飼ってよいかといったルールを、誰がどう決めるかという問題も扱うため、経済学は法学・政治学とも密接な関係があるということもよく分かります。誤解を恐れずに言うと、経営学は企業を見る経営者の視点、経済学は社会全体を見る公務員的視点というとらえ方もできるでしょう。

さて、経済学部と経営学部（専攻）を比較してみると、私立大学や公立大学では経営系の学部学科が人気傾向にあります。やはり、企業経営や起業、利益を得るといったことは、目の前のこととしてイメージがしやすいからだと思います。一方で、難関大学では経済学の人気が根強くあります。年金制度・格差問題・景気変動・国際経済・円安など「なぜ社会はこんなに動いているのだろう」と考えることに魅力を感じる人が少なくないからだと思います。改めて羊飼いの話で言えば、一人の羊飼いを成功させるのが経営学、10年後も、100年後もみんなが羊を飼い続けられる社会の仕組みを考えるのが経済学だと考えると、そのどちらにも重要な意義があることがわかると思います。

経済・経営系の大学を選ぶなら…

字数に限界があるので、名前の列挙になってしまいます。これを参考に調べはじめてみてください。

経済学部：一橋（頂点）／東大・京大（別格）／大阪・神戸（伝統）／横国・大阪公立・滋賀・金沢・和歌山（有力）

経営学部：一橋・神戸（頂点）／大阪・横国・大阪公立（盤石）／滋賀・和歌山（有力）／小樽商科・都立（伝統）

経営学部としたところには、経済学部経営学科もあります。経済学系は、このほかの旧帝大も有力な選択肢です。経営学系は、ここに挙げたような商学・経営学の伝統のある大学に加え、私立大学にも魅力的な伝統校が数多くあります。

工学部について考える

あちこちの大学説明会や、大学見学に参加すると、同じ「工学部」でも、大学ごとに特色があることを実感します。大学調べなどの場面では、なんとなく難易度・偏差値のランキングだったり、大学の知名度が気になったりすることが多いですが、具体的に大学ごとの特色・個性を考え、自分が学びたいこと・将来どういう働き方をしたいかということを組み合わせ、大学選択をすることはとても重要です。

実は、日本の国公立大学で一番学生数が多いのは「工学部」です。明治以降の富国強兵・工業立国の国策により、工学部が全国各地に作られたことがその背景にあります。それゆえ「工学」の意味する幅も広く、学科・専攻によって学ぶ内容は大きく違います。大学によって名称は様々ですが、おおよそ次のような分野に分類できます。

分類	主な学科名	学ぶこと	一言で言うと
機械系	機械工学、機械システム工学 など	自動車、ロボット、設計、熱・流体など	「動くもの」を作る
電気・電子系	電気電子工学、電子工学 など	発電、半導体、回路、通信技術	「電気を操る」
情報系	情報工学、知能情報工学 など	AI、プログラミング、ネットワーク	「情報を扱う」
化学系	応用化学、化学工学 など	化学材料、医薬品、化学プロセス	「物質を変化させる」
材料系	マテリアル工学、材料工学 など	金属、新素材、半導体材料	「新しい物質を作る」
建築系	建築学、建築デザイン など	建物の設計、構造、住環境	「建物を作る」
土木・環境系	土木工学、社会環境工学 など	橋、道路、防災、都市計画	「社会の基盤を作る」
航空・宇宙系	航空宇宙工学 など	ロケット、航空機、人工衛星	「空と宇宙を目指す」
生物・生命系	生命工学、生物工学 など	バイオテクノロジー、医工学	「生命を工学で扱う」
融合・システム系	システム工学、デザイン工学 など	複数分野を組み合わせる	「複数の技術をつなぐ」

こうやってみると、多岐にわたることがわかります。だから、「〇〇大学の工学部に進学したい」という進路希望は大事ですが、それは機械系について学びたいのか、航空・宇宙系について学びたいのか、あるいは建築系・土木系の勉強をしたいのか、ある程度明確になっていることが重要です。

各大学は立地や設立の目的によって、それぞれ得意分野があります。また、研究者養成に重きを置いている大学なのか、技術者養成に重きを置いている大学なのかという観点もあります。研究色が強いのは、いわゆる旧帝大ですし、工学研究のトップとして東京科学大学（旧東京工業大学）も外せません。その他の国公立大学の工学部では学科・専攻によってグラデーションがあります。他方、私立大学の工学部はどちらかというと技術者養成のカラーが強いかな、というイメージになるかと思います。

例えば名古屋大学はノーベル賞受賞者も輩出する研究大学でもあるので、工学部も数理系の基礎研究が強く、博士課程まで進む人も多いです。名古屋は自動車産業の中心地であり、機械系・航空宇宙系が強いのはもちろん、化学系のメーカーも地元にあるため、化学・材料系も強いです。静岡大学工学部も、地域的には機械系のイメージがあるかもしれませんが、歴史を辿る（浜松高等工業学校は名門！）と電気電子系、さらに光技術も非常に強い大学です。旧帝大でいうと、東北大学だったら材料工学、北海道大学なら環境工学、大阪大学はレーザー技術や医工連携が得意分野と言えます。実際のところ旧帝大ならどこでも大丈夫なんですけどね。以前、名古屋大学工学部の説明会に登壇した博士課程の大学院生には、「薬学を勉強して製薬会社に入るために、名古屋大学の工学部化学生命工学科に入学した」という人もいました。

地方大学になると、より得意・不得意分野が明確になってきます。例えば建築・土木系を学ぼうとすると、静岡大学には専攻がないので、信州大学や山梨大学の工学部が視野に入りますし、基礎研究という方面だと金沢大学理工学域はおすすめです。もう一つ工学部選びのポイントは、上記のような学科・専攻を目指して進学するパターンと、一旦、いろいろ見てから学科を選択するパターンがあります。新潟大学工学部は、一旦工学部に入って学んでから、進級時に学科・専攻を選ぶという仕組みになっています。ちなみに新潟大学は他学部も、入試の段階では学科に分かれず、入学してから学科・専攻を選ぶ学部が多いので、何を勉強しようかまだ迷っている人にはおすすめの大学です。また、他学部との連携も気になりますね。岐阜大学工学部は、医学部・応用生物科学部（≒農学部：獣医もあり）が同じキャンパスにあり、敷地内には岐阜薬科大学もあるので、医・薬・農との連携ができるような大学と言えます。